

書跡資料の調査と研究

継続して行っている南都諸大寺の書跡資料の調査は、1998年度は興福寺、薬師寺、法隆寺で行った。興福寺は『興福寺典籍文書目録第三巻』収録分である経函第61函以降のうち、第61、72、78函など調査未了であった分の調査を作成し、現在未撮影分の撮影を進行中である。

内容は、第61、72函は論議草、第76函は法華経である。薬師寺は特別研究欄で述べる。法隆寺は、寺側が進めている昭和資財帳作成の調査に協力するかたちで、古文書

についての調査を従来から行ってきた。長櫃などに収められている多量の未整理の文書が存在するが、その調査には長期間要すると思われるので、古文書については戦前に萩野三七彦氏により整理され、それに基づいて成巻されたり、冊子本として修理されたりした古文書群の目録を作成し、『法隆寺の至宝 8 古記録古文書』として刊行された今回の資財帳に古文書目録として収録した。その他に南都では、現在県教委が行っている県下の中国や朝鮮の版経や文化庁の東大寺修二月会資料の調査に参加した。その他文化庁、教育委員会、寺などが行った京都醍醐寺聖教、京都冷泉家典籍文書、京都東福寺文書、京都仁和寺聖教、滋賀石山寺聖教、東京国立博物館法隆寺献納宝物などに参加協力している。ここ数年、調査に参加協力してきた滋賀永源寺文書、京都興聖寺一切経、奈良西大寺元版一切経の調査は終了し、それぞれ教委などで報告書が刊行された。

上記の調査のうち仁和寺は、奈文研で1950年代から調査を行っており、その成果として御経蔵・塔中蔵聖教、塔中蔵階下書籍について罫紙の目録を作成している。現在、御経蔵につき、その目録を再確認したものを作成中である。古文書料紙関係の調査では、共同研究グループとともに、今年度は和紙製作の現地（京都黒谷、高知伊野）に行き和紙製作工程を実見した。そこで原本調査でデータとして収集している簀目、糸目、刷毛目、板目など料紙に残っている痕跡と工程、料紙の表裏などとの関係を確認した。また漉返紙をいろいろな条件で製作し、古文書現物の宿紙などとの色調の比較などの調査を行った。これら和紙製作の工程で実見しての認識を古文書調査において古文書の原本で再確認したいと考えている。

(綾村 宏)